

# サロンのあべの

Vol.125



井村氏の案内で館内を見学

## 住吉区在宅サービスセンター ウェルフェアテクノハウス 見学

サロン・あべの10月の出会い

立大学のすぐ近くに、今年8月

に大阪市内で10番目に誕生した

96年10月19日(土)、大阪市

住吉区在宅サービスセンター

(いきいきセンター)に集合。

センター3階の多目的会議室

で、センターの井村氏から簡単

な事業説明を受けた。

①在宅介護支援センター

高齢者支援のためのあらゆる

相談を受けている。

②デイサービス

現在8人から9人が通所。送

迎もあり、火曜日と木曜日に実

施しているが、順次拡大してい

く予定。レクリエーションのほ

か、入浴や昼食などをサービス

している。家と同じ雰囲気作り

を心掛けており、通所で気分が

晴れ言葉も増えている。高齢者

が楽しみにして来ている。

③生活支援型食事サービス

ひとり暮らしや夫婦だけの高

齢者世帯で、調理が困難な方を

対象に昼食を配達している。

④機能訓練事業

集团的社会的リハビリ。ポールなどを使って簡単な運動をしている。本人はもちろんだが、付添いの家族もストレスを発散しているようだ。

センターには、住吉区のボラ  
ンティアビューローが移転して  
きているほか、ホームヘルプサ  
ービスを実施するホームヘルパ

ーの詰所や、訪問入浴サービス、  
将来は、おもちゃ図書館も同居  
する予定である。

事業説明が終り、井村氏の案  
内で館内を見学。ピンク色をメ  
インにした配色や、各所に細か  
な工夫がなされていた。2階の  
デイルームには、厨房や浴室と  
共に和室や坪庭まであり、明る  
くしかもくつろげる雰囲気がい

っぱい。見学の我々もつつい  
椅子に腰掛けてゆったりしてし  
まう場面も見られた。

開館から2ヶ月余り、来館者  
の意見も取り入れながら、さら  
に、より良い施設作りへの姿勢  
が印象的であった。  
次に、在宅サービスセンター  
のすぐ隣りにある、ウエルフェ  
アテクノハウス大阪も見学させ

ていただいた。  
外見は普通の2階建住宅であ  
るが、内部はハイテク設備がぎ  
っしり詰まっている高福祉社会  
をめざした介護機器の家。先端  
的な在宅介護機器システムの数  
々に、圧倒されてしまうほどで  
あった。

参加者20名。(上平幸雄)

十月のサロンの見学会に参加して

奥田陽子

さわやかな秋風の日の集まりでした。  
ウエルフェアテクノハウス、耳慣れない。  
何んだらうねと、住吉区の友人をさそつ  
ての参加でした。

住吉区在宅サービスセンターを見せてい  
ただき、サーモンピンクの手摺に微笑みな  
がら、デイサービスの部屋へと足を進め、  
お風呂や食事の部屋が機能重視というより、  
花などで飾られた暖かい雰囲気、センタ  
ーの方々のやさしさを感じました。

さあ、次は、テクノハウス。

となりの敷地と聞いていったのが、ごく  
普通のシンプルな家でした。でも、一歩中  
に入ると、寢室から全て、コンピューター  
制御！リビングに入ると段差なしのサッ  
シ(ペランタへの出入り口)、キッチンに入  
って一番先に目に入ったのは、アップダウ  
ンする流し台と棚。上げたり下げたり、ボ  
タンで十分楽しんだあと、目に止まったの  
は、水平トランスファーなるもの。宙づり  
の二本のベルト。ボタン操作で上下、前後  
に移動するらしい。これは乗るつきやない  
な！

もう一人好奇心旺盛な女性がダイニング

からベッドへ。つきは私がベッドからダイ  
ニングへ。なかなか乗り心地はよく、両脇  
とおしりをソフトにガードし、安定性もあ  
る。結構体重のある私でも安心して移動出  
来た。ベッドからトイレ、お風呂まで自力  
移動が可能になるわけで、もう少し乗って  
いたい気持ちをおさえて、寢室から廊下へ、  
扉は自動。トイレも自動ドアを開けると自  
動的に点灯。すごい！  
車イスごと移動出来るエレベーターで、  
車イスの紳士と一緒に二階を見学。介護ベ  
ッドのある部屋をぬけると、入浴用電動昇

降ベッド、等々……。

目を皿のようにしながら、二〇〇㎡の敷地に建つハウスを見て回りました。この数々の新しい設備の一部でも、今、ほしいと考える人々に、暮らしの中で活かされてこそ生きてくるものと感じました。テクノハウスでは暮らせないけれど、テクノハウスの設備は、暮らしの中で動けば、高齢者にとっても、障害を持つ人にとっても、また介護する家族にとっても日々が楽しいものとなるでしょうね。

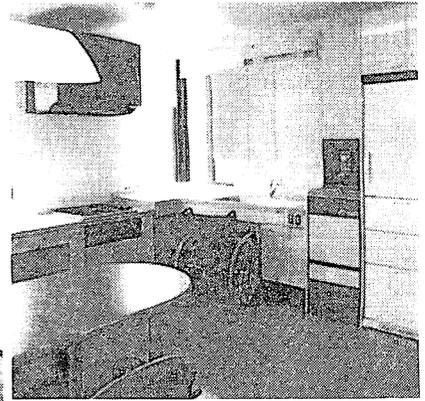
早くそんな日がくることを祈ってやみません。

富田 慶子

テクノハウスに夢をみる

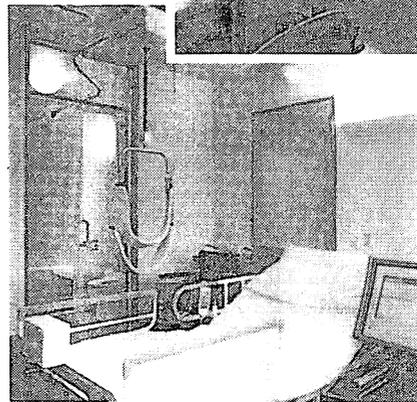
住吉区在宅サービスセンターの隣の敷地に二階家の一般住宅が建っています。

外見からは特別な家に見えませんが、一歩敷地に踏み込むと「車いすの人は、庭からスロープか、簡易リフトで。それとも玄関横のエレベーターからどうぞ」と案内されました。私は、低い段差に見えた玄関から訪れました。家の中は落ち着いた内装で、

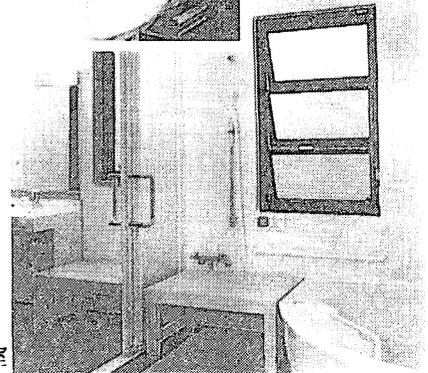


キッチン

テクノハウスの設備は  
ため息の出るものでした



寝室



浴室

調度品も特別な家とは感じられない雰囲気でしたが、説明を受けて一つ一つ見学をしていくうちに、その動線のすみやかなことに感心しました。出入り口や通路の幅が広く動きやすいのです。基本は車いす使用の人のため、もしくはそれ以上の重度身体不自由者が家族の一員として、共に快適な生活をしていくために考えられており、必要な設備が目障りなく設けられていました。設備はコンピューター操作らしいのですが、こちらの行動としてはタッチ一つで全

て完了（ドアや、カーテン開閉、エレベーター、便座の上下移動等々）。私たち障害を持つものにとって、この広さと設備は、ため息の出るものでした。おもわず「サロンに、こんな家欲しい！」と声が出てしまいました。専門家と諸企業が21世紀の高齢社会を考えて、研究が進められているテクノハウスですが、もう一歩踏み込んでモニターハウスを企画されんことを希います。家は実際に住んでみてこそ生かされるのですから。その家のモニターにはサロンが

ご協力したいな...と、夢をみました。

十月のサロンに参加して

市丸 菊美

十月十九日(土) 秋晴れのよいお天気！  
サイクリング気分で、住吉区民なのに迷  
い迷いながら「住吉区いきいきセンター」  
へ到着です。

見学しながら、使用する立場からの意見  
が次から次と出て、なるほどと思う事が沢

CHRISTMAS MERRY CHRISTMAS MERRY CHRISTMAS MERRY CHRISTMAS

お知らせ

サロン・あべの12月の出会い

「あなたとサロンとクリスマス」

日時=12月7日(土) 午後12時~5時

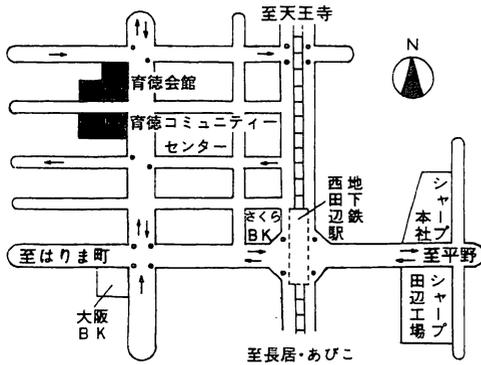
会場=育徳会館3階 「幸分ホール」  
(阿倍野区阪南町5-12-5)

会費= 1,500円

備考=軽食とお飲み物、そして、心ばかりのクリスマス・プレゼントをご用意しています。準備の都合がございますので、11月末までに必ずお申し込みください。

お申し込み・お問い合わせ先

☎06-691-1028 (富田慶子)



山あり、本当に勉強になりました。

テクノハウスでは、せっかくの施設、こ  
れからは体験人居などもあればと思いまし  
た。

山あり、本当に勉強になりました。  
テクノハウスでは、せっかくの施設、こ  
れからは体験人居などもあればと思いまし  
た。  
△サロン・あべのVに初めて参加させて  
いただき、アットホームな雰囲気の中、自  
然体でふれあう事ができ、こころ良い時間  
を過ごさせていただきました。  
ありがとうございます。

「こんな話」を読んで

M・D

十月は残り数日、「今年もあと二ヵ月」  
なんて気ぜわしい言葉もちらほら耳にしま  
す。いかがお過ごしでしょうか。

「サロン・あべの(一二四号)」、あり  
がとうございます。

岸田美智子さんの「こんな話」を呼んで  
物事はいろんな側面からみないといけない  
と改めて感じました。

「東京の方では、とても施設の改善が進  
み……」とあり、日本もやっとここまででき  
たんだなと思ひ、先に読みすすむと、「…  
…逆に施設障害者の人は地域に出る意味が  
見えてこない……」とあり、思いがけない  
文章でした。

環境が整えば良いと信じていたところが  
ありましたから。

自由に行動できることの意味を見失って  
いたようです。またひとつ気づくことがで  
きました。

では、お元気で、秋をお楽しみください。

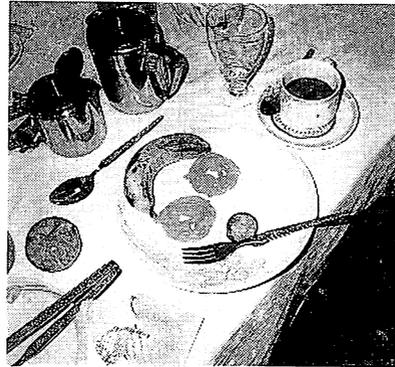
# 作る つくる 創る 河合恵子

## 紅茶の楽しみ

秋の夜長、暖かい一杯の飲物に心はなごみます。その様なき手になさるのは緑茶、コーヒー、紅茶、それともアルコールでしょうか？

紅茶といっても、世界二十数カ国で生産され、同じ国でも栽培される土地、季節、気候条件によってそれぞれ個性をもっているようですが、香気のすぐれた世界の三大銘茶といわれるのはインドのダージリン、セイロン（スリランカ）のウバ、そして中国のキムン。なかでもダージリンの極上品はカップに注いだとき、色は薄くても格別の香味をもっているため「紅茶のシャンペン」といわれるそうです。このダージリンも四月から五月にかけて摘まれる

「ファースト・フラッシュ」（一番摘み）は収穫量が少なく、しばしば高値で取り引きされるとのこと。また「マスカット・フレーパー」といってマス



カットブドウを口にした香りが味わえる「セカンド・フラッシュ」（二番摘み）は五月中旬から七月頃まで生産され、どちらもストレート・ティーを味わうのによい茶葉。そして、七月から十月

39

の雨季の後に摘まれる「オータム・ナール」（秋摘み）は味に渋味加わり、紅茶の色も濃い目になるためミルク・ティーがお勧めとか。ちなみにピコあるいはペコーというの中国のハイハウ（白毫）がなまったもので紅茶の葉の大きさと形を表わす等級のひとつ。その主な分け方は大きいものからオレンジ・ペコー、ペコー、ブローケン・オレンジ・ペコー、ブローケン・オレンジ・ペコー・ファニングス、ダスト。ところでチャイ（インド式あるいはセイロン風ミルク・ティー）は鍋に水を沸騰させ、茶葉をいれて少し煮詰め、ミルクを入れて沸騰寸前まであたたため、茶こしでこしてカップに注ぎます。これにシナモンまたはジンジャーを加えても少し変わった紅茶を味わえます。

## 知的障害のある人の支援体制づくり ⑧ 阿部 幸恵

知的障害のある人が、自主的に活動をしていくには、周囲の支援者も共に成長していく必要があります。「障害はその人自身にあるのではなく、環境・社会にある(ノーマライゼーションの理論)」と考えるのならば、支援者も環境・社会の一部ということになります。言い換えれば、その人の知的障害が問題ではなく、周囲の人々が、知的障害をどうとらえているのが問題である、ということになります。

それでは、支援者の何が問題で、どの様に変わっていかばいいのでしょうか。

### (三) 支援者の勉強会

「知的障害者をよりよくサポートするための勉強会」

一昨年、東京・八王子市にある自立生

活センター、ヒューマンケア協会で行われたのが最初でした。講師は、ピアカウンセラー(＊)の境屋うららさん。ビル・ウォレル著(阿部司訳)のピープルファーストの「支援者の手引き」をヒントに設定されています。講師自身、重度の身体障害があります。障害のちがいはありますが、障害のある立場から、参加者に問題提起します。

同じ勉強会が、昨年から今年にかけて、大阪の知的障害者の通所施設「クリエィティブハウス・パンジー(以下パンジー)」で行われました。参加者は、親も含む施設の職員です。初回のヒューマンケア協会の参加者は、知的障害のある人と関わっていない人がほとんどでした。二回目のパンジーの場合は、知的障害のある人と、日頃接しているだけに、よりリアルな内容として、勉強会は進められていき

ました。  
勉強会は、全部で六回です。以下のテーマで行われました。

第一回目 自己紹介・知的障害を持つとはどういうことか

第二回目 当事者が力をつけるとは、それを支えるとは

第三回目 信頼すること、任せること

第四回目 感情の扱い方

第五回目 サポーター(支援者)の「力」

第六回目 自分がどれだけ他者への愛情をもっているか確かめよう。

よいサポートをしていくためには、どんな助けが必要か。

サポーターとしての自分をほめてあげよう。

まず、知的障害を、様々な角度からとらえます。そして、世間では、知的障害をどう見ているか、自分はどう見ているかを、参加者ひとり一人が述べます。また、ロールプレイで知的障害をもつことから生じる不利・不自由さを経験します。参加者は、知的障害を、明確に理解し

ていなかっただこと、それ故に、偏ったとらえ方をしていたことを認識します。また、そのようにとらえられている本人の気持ちと、それを許している社会の在り方について考えます。

つまり、知的障害のある人を「できない人」にしているのは、自分を含む周囲の人々である、ということに気付くことから始まります。

そして、本人を先回りして、やってしまっていることを、具体例を挙げながら考えます。先回りしてしまうために、周囲の人が抱え込んでしまう結果につながる、ということに気付いていきます。

つまり、「自己決定を尊重する」ことを、現場での支援者の感情の動きに焦点を絞ることで再認識することになります。支援者と本人との領域に線を引くこと、本人のことは本人に任せることの当たり前さを納得するのです。

以上のことから分かるように、この勉強会で、支援者は、自分を見つめ、語ることを求められます。ですから、参加者は、初めの頃は特に、いろいろな意味で葛藤します。

しかし、最終的には、葛藤をクリアにして、本当の意味での「支援者」像をイ

メージできるようにになります。

最後の方になると、ひとりの人間を目の前にして、その関係性に悩むのは当たり前なことであり、支援の方法にマニュアルはない、という答えにたどり着きません。

パンジーのように、一つの施設の中で勉強会を行う場合、次のことが見えてきます。

施設処遇の問題点の一つとして、職員の処遇姿勢・方法のバラツキがよく挙げられます。パンジーのように、施設職員全体で勉強会に取り組むことにより、職員の意識が向上し、共通した認識で現場に臨むことが可能になります。

また、勉強会后、支援の在り方が、施設内でとどまるのではなく、広く社会に向かうように、と考えていくことが大切です。

勉強会中、または終了後、いつも講師から「このようなことをしていて、つらい」という言葉が出されます。それは、この勉強会が知的障害のある本人がいなるところで開かれているから、と言います。

近々、この勉強会の報告書が出される予定です。また、境屋さんを中心に同じような勉強会が、今後も開かれていくようです。

\*ピアとは「仲間」という意味。

障害のある人同士がカウンセラー、クライエントになって、カウンセリングをし合います(ピアカウンセリング)。境屋さんは、ピアカウンセラーを養成しています。



## すきやき

玉葱、白葱、椎茸、えのき、麩に豆腐にみつば、蒟蒻そして牛肉。すきやきの具は地域や家庭によりさまざま、つくり方もいろいろ。今宵ゆっくり、あつたまろ。なにがなんでも「かるた」です。

難得を享二五回

# ★時が与え奪うもの

一日を、ただ生きるだけで何かを得ることができるのは、子どものころだけ。食べて、眠り、そして目覚めれば、それで身体(からだ)は大きくなる。そういう意味で、幼い人は時間(とき)から愛されている。

背丈があまり伸びなくなると、時は、手ばなしで人を愛することをやめて、条件つきで何かを与えるようになる。時は



## 好評

### 岡 知史氏のエッセイ集

- ・ほんの少しの神に近い部分
- ・知らされない愛について

領価＝七〇〇円

問い合わせ先＝TEL 06・六九一・二〇二八(富田)

私たちが捧げた分だけ返してくれる。努力すれば報われるという、時と取引する時代が続く。

しかし、そのころから、時はこっそりと後ろから何かを奪うようになる。それに人が気づくのは、ずっと後になってからだ。何年も力を傾けて、ようやくその報いを手にしたとき、その手からは幾分かのおつややかさが失われている。

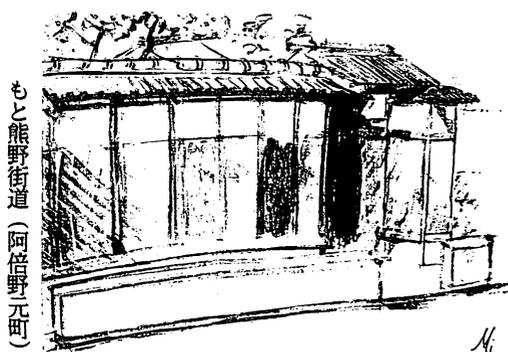
人が身体(からだ)を壊すほど働くのは、時の、そんな悪意に、はつきりと気がつくころだ。私たちは時と交換に得るものと時が奪うものとを、秤(はかり)にかけるようになる。その釣り合いを守るために、私たちは懸命になるだろう。

しかし、どんな試みの後にも、時は、やがて与えるよりも奪うようになる。そうなる、一日が、ただ過ぎていくだけで私たちは失うようになる。



時は私たちに希望を与え、そして奪うのだろうか。時は私たちをしばらくの間、喜ばせておいて、最後には打ち捨てるのだろうか。

だが奪われて自由になることがある。月日が悲しみを癒すのは、時が悲しみを私たちから奪うからだ。自分の犯した罪の意識に苦しむとき、その苦しみを奪うのも、また時なのである。私たちは、さまざまなこだわりをもち、そ



もと熊野街道(阿倍野元町)

わがまち阿倍野 絵はがき散歩⑤

れによってかえって自分を不自由にさせているが、そのこだわりさえ時は取り除いてくれる。とすれば、人が年をとり、時が与えるより奪うようになって、それは一つの幸いなのだ。  
時は人からすべてを奪うだろう。その若さも、美しさも、賢さも、力づよさも、時の奪う手から逃れるすべはない。しかし、時は人の悲しみも苦し

も、自分を責める気持ちも、さまざまにこだわりさえも奪ってくれる。

そして、時は不慮の事故がないかぎり、すべてを同時に奪うことはない。奪うことにも順序がある。だから、うまく順序よく時に手渡していけばよい。枯れたように微笑む、美しく老いた人は、きつと、そのように時と和(なご)む術(すべ)を学んできたのだ。(知)

国道13号線の一筋西側、チンチン電車といえは東天(イ)屋から一筋東側。ここが「もと熊野街道」(元阿倍野街道)である。今はなんとも静かな安らぎの中の道筋に変わっているこの街道も、平安中期以降鎌倉時代の熊野詣では「蟻の熊野詣」と呼ばれるくらい股賑をきわめていたという。

繪巻 わがまち阿倍野

- 歴史のあるまち
- チンチン電車の走るまち
- まちかどスケッチ

きりぎりす(五〇四)

感謝

カンパ、お茶菓子、写真、冊子等の寄贈。十周年記念誌、エッセー集、絵葉書等、お買い上げありがとうございました。

お礼を申し上げます。

岩田泰男、善甫道子、長沢悦子、

深江義幸、朗読グループぼけっと

朗読グループ「ぼけっと」のご案内

朗読グループ「ぼけっと」のご協力で、

△サロン・あべのV紙二二四号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一二四号の分があります。

五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本に、△サロン・あべのV十周年記念誌「はあとが、はろー!」は、九〇分テープ二本と一二〇分テープにそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作・絵川中川勝彦)、「ラジオたんぱ」(三〇分)放送の『△サロン・あべのV平成七年五月の出会い』もあります。

いずれもご希望の方には、ダビングをします。富田までお申し出下さい。

(〇〇六)六一六九一一〇二八

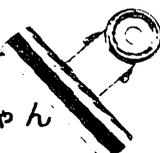
# 美智子のこんな話

岸田 美智子

またまた 起こってます

ライフネットワークでは、七年間施設からの個人的な外出を支援してきました。施設障害者の社会参加を推し進めてきました。その結果、外出の方は大阪府のガイドヘルパー制度が、施設障害者にも適用されたり、大阪市の全身性障害者介護人派遣団体系も基準は低いですが、適用されるようになりまし。

又、有料の介護者派遣団体が地域の中で動き出し、この利用も施設障害者に進んできました。このように月に二〜三回の集団



将来の大物

おもしろい 姉ちゃん

男の子ばかり十八名。それも、ほとんど中学・高校生ともなれば、朝彼らを起こすのは一仕事です。

今、思い起こせば、私もその時代は寝起きが悪くて朝から何度、母親と険悪な雰囲気を作らせたことでしょう。

しかし、自分が起こす立場となれば話は変わり、何度呼ぼうが叫ぼうが起きない彼らにやはり腹が立ちます。

最初は元気に明るく  
「おはよう、起きよう！」と声をか



けていたのが、時間の経過とともに「起きなさい、何時やと思っっている」の怒鳴り声に。

一階の女の子まで、聞こえるという私の「おはよう」攻勢に、起きない彼らは将来大物になるかも知れません。

田 淵 美登利

での散歩ぐらいしか、施設から出ることが

なかった生活からは、一歩進んだ事は確実です。でも、施設のなかでの生活については相かわらず旧態依然として変わっていない

いことが多いようです。

その他のひとつの問題として金銭管理があります。つい最近も光園の施設長が横領事件でクビにされたり、知的障害者の施設



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」12月の出会い

日時；12月15日(日)午後1:30-4:00  
 場所；淀川区在宅サロンの「やすらぎ」  
 [淀川区三国本町2-14-3]  
 内容；1部「今年1年を振り返り」  
 ウイズ兼淀川 鈴木昭二氏からのメッセージ  
 2部 ビンゴゲームで年忘れ  
 ゲームの景観は多額有り  
 会費；なし  
 問い合わせ先；淀川区社協 サロン・ビューロー  
 TEL06-394-2900

■「サロンつるみ」12月の出会い

日時；12月15日(日)午後1:30-4:00  
 場所；大阪市立鶴見会館  
 [鶴見区横堤5-5-51]  
 内容；「クリスマス・パーティー」  
 会費；500円  
 問い合わせ先；TEL06-913-7070  
 (鶴見区サロン・ビューロー藤井・山本)

■《てくてくすみよし》冬のイベント

日時；12月8日(日)午後2:00-4:00  
 場所；長居陸上競技場内  
 施設ユースホステル多目的ホール  
 (TEL06-699-5631)  
 内容；「クリスマスコンサート」  
 ~96年ラスト イベント~  
 ゲスト=福本 淳 氏(ピアノの奏者)  
 会費；1500円(プレゼント含む)  
 申込み締め切り；11月30日  
 申込み・問い合わせ先；  
 TEL06-692-8411(山本)

では、たびたび入所障害者から預かっている年金などの預金を施設側が、勝手に利用してしまうケースがあります。

掲載した新聞記事はその一例で、この内容では、親などの承諾をとり正当化してしまふという信じられない状況のようです。施設に預かってもらっているという弱い立場を端的にあらわしていると思います。

現在ライフネットワークでも、ある療護施設の運営の在り方に問題があることがわかってはいるのですが、入所施設とのつながりが弱いため、どうしていくか悩んでいるところなんです。行政も監査に入ったりしているように見えますが、改善の傾向がまだ見

えてきていません。やはり第三者が密室な施設の運営には権限をもつオンブズマン制度が必要なのではないでしょうか。

皆さんも、この新聞記事を読まれて、いろいろ考えてみて下さい。

●(抜粋要約)

奈良の福祉法人

「施設存続へ苦渋の決断」

保護者会 横領金変換求めず

奈良県五条市の知的障害者更生施設、社会福祉法人・三寿福祉会

「つわぶき苑」の伯田千明理事長(68)が入所者に振り込まれた障害基礎年金約一億八千万円を横領した事件で、同苑の保護者会(岡本朝雄会長)は被害全額の返済要求をせず、寄付扱いにすると決めたことがわかった。「苑を存続させなければ入所者の行き場がなくなる」という保護者たちの苦渋の決断で、同会は今後、県や関係機関などに苑の存続を嘆願する。



「花だより」と「出会いの風景」の二種類あります。  
ちよつとした近況、お知らせや季節のごあいさつなどに  
どうぞ。一セット五枚組¥1500-

# サロンの絵葉書



■一筆箋の表紙が新しくなりました。

## FROM EDITOR

編集後記

「住吉区在宅サービスセンターで、館内の車イスでの移動  
のことで、職員の方にいろいろと助言されているのを聞いて、  
目線の違いになるほど、なるほど。私たちが気付かず  
通り過ぎてしまうことがいかに多いか。勉強になりました。」アフター<サロン>のダベリ  
ングで。 (石)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.125[`96.11.16.発行] 定価¥100.

代表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365

連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028

表題；井上憲一・筆 文中イラスト；石田美禰子

郵便振替口座；サロン・あべの 00950-9-26941

印刷；セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F ☎06-719-8212 ☎06-719-8213